就職先に県内中小企業はいかが？

学生自ら取材 働きがい発信

甲南大、流科大など参加

近畿経産局など主催

元気な地元中小企業を学生自身が取材し、魅力を広く発信するユニークな事業が始まった。就職氷河期と呼ばれる状況が続く中、就職先として中小企業に目を向けてもらおうと近畿経済産業局などが企画した。題して「ドリームワークスタイル・かんさい」。本年度は、甲南大（神戸市東灘区）や流通科学大（同市西区）などの学生が兵庫県内の10社以上を調査し、リポートにまとめる。

（段 貴則）

若手社員（右）から仕事について話を聞く流通科学大の学生たち＝神戸市中央区東川崎町1、レック

厳しい雇用情勢にあっても、若者の大企業志向は依然、強い。採用意欲があり、優れた経営を続ける中堅・中小企業を若者にアピールしようと、経産局や帝国データバンクが中心となって、この事業を実施する。

関西では五つの私大の学生が、正規科目として取り組む。

流科大2年生6人がこのほど訪問したのは、業界最多という年間9千組の結婚式を手掛けるレック（神戸市中央区）。役員や若手社員から会社の強みや日々の仕事内容などをヒアリングした。

学生の林梨蘭（パパン）さん(19)は「中小企業は若い社員一人一人に仕事をまかせてもらえ、やりがいがあることが分かった」と話した。

今後、学生が各企業の取材結果を「魅力発信リポート」としてまとめ、ホームページで公開する予定。